



2位 FCセダック



3位 松本山雅FC U-11

伸び伸びプレー 成長の糧

少年サッカー 市民タイムス・カガミ杯

第35回市民タイムス 少年サッカー新人戦・カガミカップは14日、アンテロープ塩尻が3大会ぶり2回目の優勝を飾って幕を閉じた。

決勝にはアンテロープとFCセダックが勝負した。頂点を懸けた一戦は、気持ちがぶつかり合う好ゲームとなった。

先手を取ったのは、

アンテロープ。前半6分、梅本千輝のパスを受けた松崎薫が左足で決めた。反攻を許した後半は11分に同点弾を浴びたが、2分後、波日田向太が右サイドの

アンテロープ。前半6分、寺島来武の得点で追いついたが、一歩及ばなかった。

アンテロープは「戦術理解やコミュニケーションが優れていた」と評価し「結果に満足することなく、質やレベルを高めた」と先を見据えた。

(肥後健一)

試合結果

▽準々決勝
松本北6 1-0 池田町
ク 3 (1-1) 1堀金
アンテ 2 (1-0) 0鎌田
塩尻 3 (1-0) 0塩尻ア
松本山 2 (1-0) 0ホルマイ

大会が第35回の節目を迎えた記念で、主催者が協賛するカガミグループに記念品を贈った。試合に先立った開会式で、松本市サッカー協会、アンテロープ少年団連合会の乾靖会長が、カガミ・ホー

期からの歩みを振り返りつつ「われわれの夢もなかった」と喜んだ。乾会長は「5年生以下の子供たちにとって最初の大きな目標に成長させてもらった」と感謝した。

35回節目の大会 カガミに記念品

主催者が協賛に感謝

ルディングスの各務秀一代表取締役がガラス製の盾を手渡した。各務代表取締役は初



優勝を目指して熱い試合を繰り広げる選手たち (FCセダック-アンテロープ塩尻)

創設当初は大会規模も小さく、魅力づくりなどにも腐心したという。各務代表取締役は初



優秀選手 竹村篤人君 (FCセダック)

中盤で惜しみなく攻守両面でボールに絡み続けた竹村篤人選手(梓川小5年)。大会を通して攻撃はうまくなったと手応えを感じ「自分もチームも頑張った結果」と、素直に受賞を喜んだ。



最優秀選手 樋口修也君 (アンテロープ塩尻)

センターバックの位置から再三、持ち味の攻撃参加を見せた樋口修也選手(桔梗小5年)。「大会を通して相手の攻撃を防げた」と胸を張り「チームのおかげで取れた賞」と充実感を漂わせた。